

京都市はぐくみ推進審議会
令和元年度 第1回「親子いきいき保健部会」
次 第

令和元年6月20日(木)
午後6時30分から
京都平安ホテル

1 部会員の紹介等

資料1 委員名簿

2 議題

「子ども・若者に係る総合的な計画（仮称）」策定に係る母子保健及び思春期保健の今後の方向性

資料2 母子保健の今後の方向性について

資料3 思春期保健の今後の方向性について

京都市はぐくみ推進審議会
親子いきいき保健部会 委員名簿

資料1

<部会員> 11名

(敬称略・50音順)

	氏名	団体・役職名等
1	尾崎 明子	一般社団法人京都府歯科医師会
2	北島 則子	公益社団法人京都府看護協会 第一副会長
3	木村 友香理	市民公募委員
4	熊谷 幸江	公益社団法人京都府栄養士会 代表理事
5	小林 知佐	一般社団法人京都府薬剤師会 理事
6	志澤 美保	京都府立医科大学看護学科 准教授
7	芹澤 出	京都母子生活支援施設協議会 会長
8	田村 秀子	京都産婦人科医会 会長
9	藤垣 真貴子	公益社団法人京都府助産師会 会員
10	藤本 明美	特定非営利活動法人京都子育てネットワーク 理事長
11	部会長 松田 義和	一般社団法人京都府医師会 理事

第Ⅲ部 計画の基本的な考え方【総論】**第2章 目指すまちのすがたを実現し、切れ目のない支援を推進するための重点項目****重点 1 安心して妊娠・出産できる環境づくりと子どもの学びと育ち合い****1 医療機関等と連携し、子どもや妊産婦を支援することで、安心して妊娠・出産できる環境づくりの促進****【現状・課題・今後の方向性】**

母親が安心して妊娠・出産し、子どもの命を大切に育むことにより、子どもの健やかな成長につながりますが、昨今の少子化の進行や地域のつながりの希薄化等に伴い、妊産婦が育児不安やメンタルヘルスの問題等、課題や困りを抱えやすい状況です。

このことから、「子育て世代包括支援センター」として区役所・支所に設置している子どもはぐくみ室の相談対応機能を最大限に発揮することで、妊娠期から育児期まで切れ目のない支援を行い、医療機関をはじめとした関係機関との連携のもと、子育て家庭を身近な地域で支えるネットワークづくりを推進します。

【主な取組】

- ・ 子育て世代包括支援センター機能の充実
- ・ 医療機関等との連携による妊娠期からの切れ目のない支援の推進

第Ⅳ部 計画の内容 【各論】

第 1 章 ライフステージに応じた子ども・若者の成長

1 母子保健



【現状・課題・今後の方向性】

妊娠・出産期は、心身の大きな変化に加え、少子化や地域のつながりの希薄化等により孤立しやすく、多くの妊産婦が不安を感じやすい時期です。

妊産婦が安心して妊娠・出産できるよう、区役所・支所子どもはぐくみ室が「子育て世代包括支援センター」としての機能を発揮し、医療機関等の関係機関との密な連携のもと、子育て家庭を身近な地域で支える仕組みづくりを推進します。

（１）妊娠前から支える安心して妊娠・出産できる環境づくり

地域の様々な子育て支援機関と連携しながら、子どもはぐくみ室が「子育て世代包括支援センター」としての専門性を発揮し、母子保健事業等を通じた関わりを契機として切れ目ない支援を推進することで、安心して妊娠・出産できる環境づくりに取り組めます。

また、妊娠を望む方の希望を叶えることができるよう、不妊治療費の助成や不妊相談の実施に加え、妊娠・出産に係る正しい知識の普及啓発に取り組めます。

【主な取組】

- ・ 子育て世代包括センター機能の充実
- ・ 妊産婦の健康の保持増進のための支援の充実（口腔保健・栄養・禁煙支援・飲酒防止を含む。）
- ・ 医療機関等との連携による妊娠期からの切れ目ない支援の推進
- ・ 不妊に係る支援の充実

（２）産後ケアと育児不安を軽減するための支援の推進

産後間もない時期の育児不安の軽減のため、医療機関をはじめとした関係機関と連携しながら、母子保健事業を推進することで、支援を必要とする子育て家庭を早期に発見し、児童虐待未然防止の観点を踏まえて適切な支援につなぐ体制を整備します。

また、子育ての身近な支援者である夫（パートナー）を中心として、妊産婦を取り巻く家族が積極的に協力しながら育児に取り組めるよう、子育てに関する知識や情報の発信を行います。

【主な取組】

- ・ 産後ケアの推進（スマイルママ・ホッと事業・産婦健診ホッとサポート等）
- ・ 妊産婦とその家族を対象とした妊娠・出産・育児に係る情報発信の充実
- ・ 妊産婦の健康の保持増進のための支援の充実（口腔保健・栄養・禁煙支援・飲酒防止を含む。）

【再掲】

- ・ 医療機関等との連携による妊娠期からの切れ目ない支援の推進

【再掲】

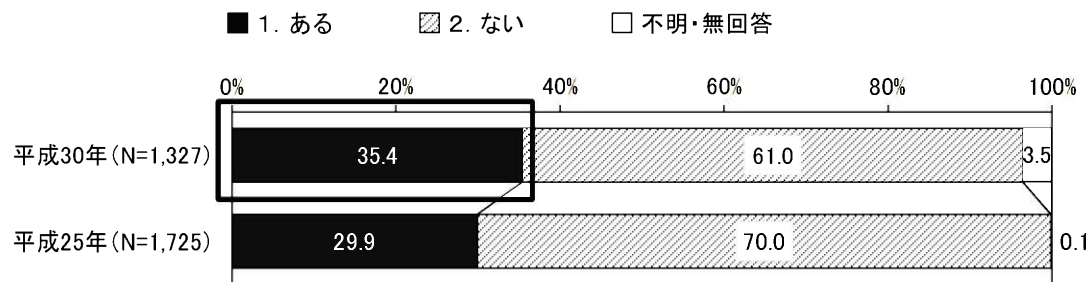
母子保健に関する現状

1 不妊に関する悩みや不安

(1) 不妊について悩んだことの有無

「1. ある」が 35.4%, 「2. ない」が 61.0%となっています。

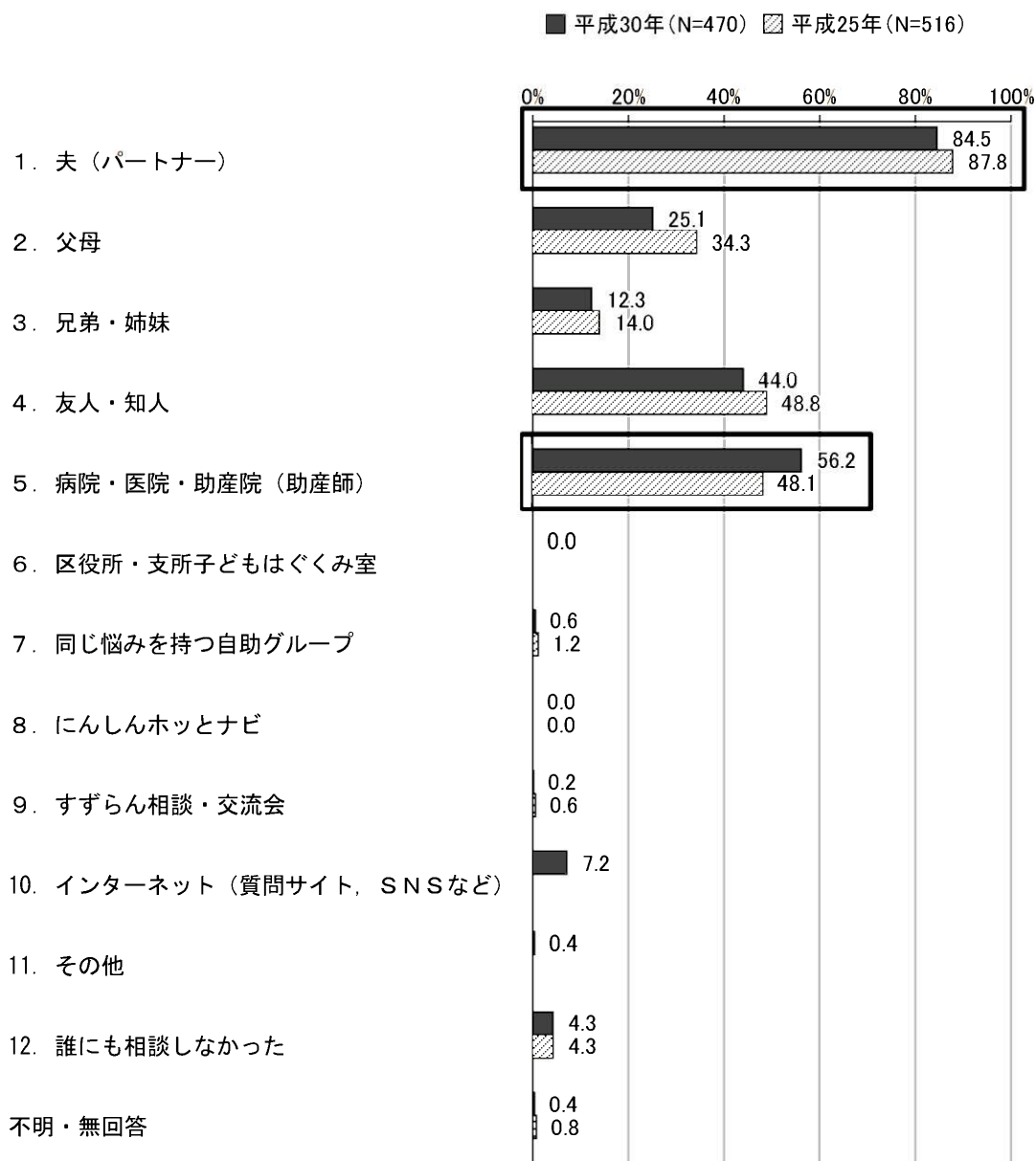
平成 25 年と比較すると、「2. ない」が 9.0 ポイント低く、「1. ある」が 5.5 ポイント高くなっています。



(2) 不妊に関する悩みの相談先

「1. 夫（パートナー）」が 84.5%と最も高く、次いで「5. 病院・医院・助産院（助産師）」が 56.2%、「4. 友人・知人」が 44.0%となっています。

平成 25 年と比較すると、「2. 父母」が 9.2 ポイント低く、「5. 病院・医院・助産院（助産師）」が 8.1 ポイント高くなっています。



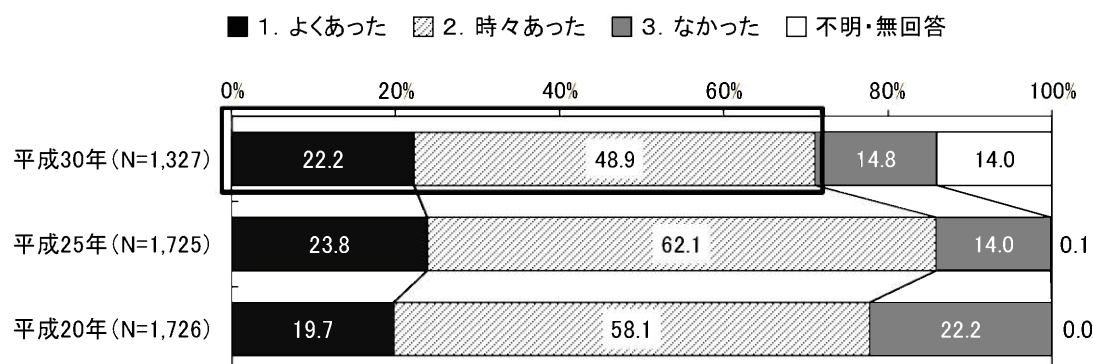
※「6. 区役所・支所子どもはぐくみ室」「10. インターネット（質問サイト，SNSなど）」「11. その他」は平成 30 年のみの選択肢

2 出産前後の悩みや不安

(1) 妊娠中の妊娠・出産・育児に関する心配や不安の有無

「2. 時々あった」が48.9%と最も高く、次いで「1. よくあった」が22.2%となっています。

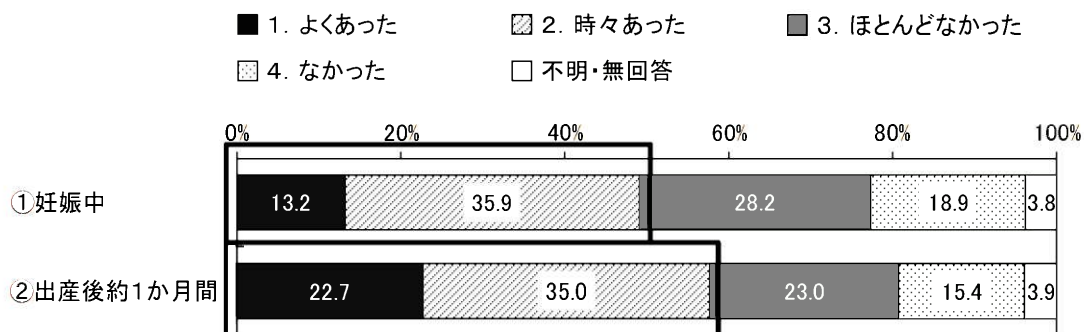
過去調査と比較すると、「2. 時々あった」が平成25年より13.2ポイント、平成20年より9.2ポイント低くなっています。



(2) 妊娠中や産後1か月間に精神的な落ち込みやイライラ感を感じたか

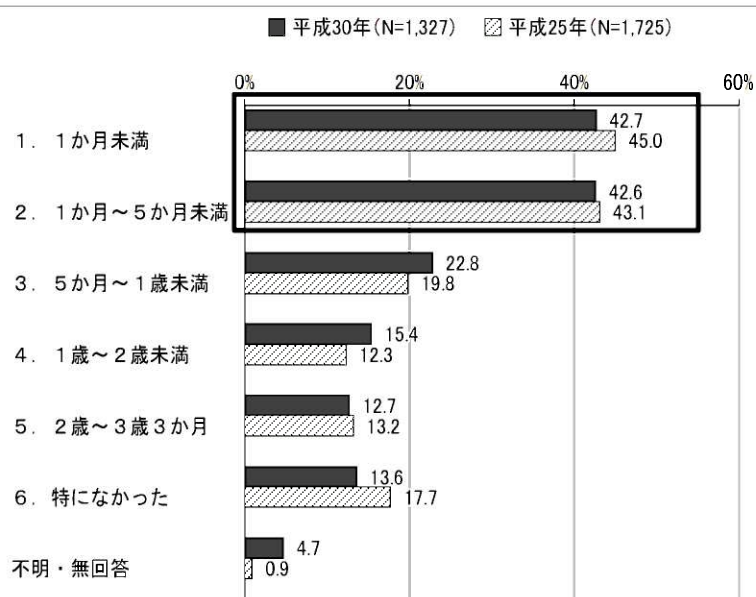
①妊娠中、②出産後約1か月間ともに「2. 時々あった」がそれぞれ35.9%、35.0%と最も高く、次いで「3. ほとんどなかった」がそれぞれ28.2%、23.0%となっています。

(N=1,327)



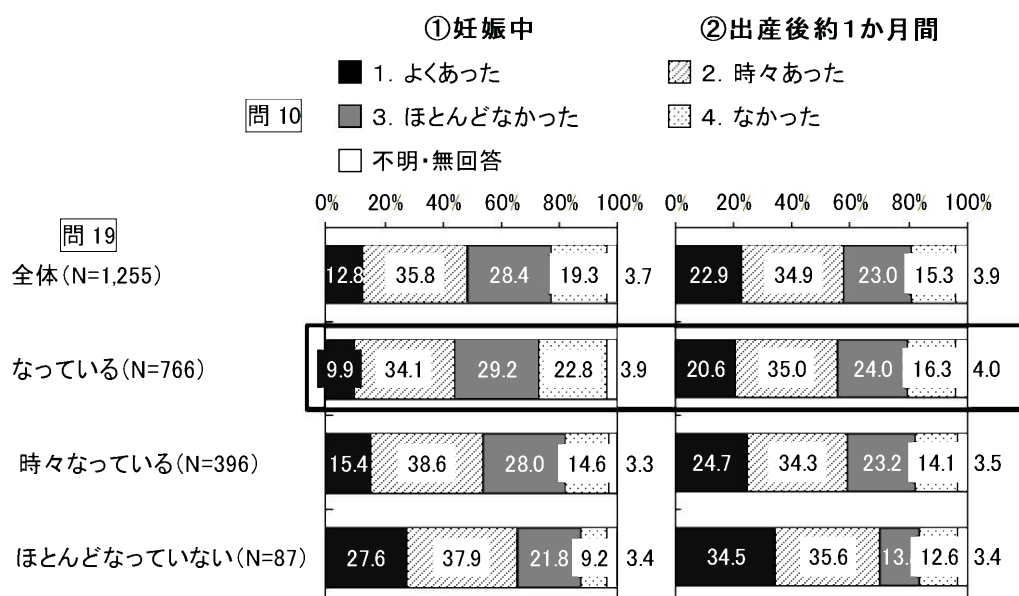
(3) これまでの子育ての中で、特に悩みや不安が大きかった時期

「1. 1か月未満」が42.7%と最も高く、次いで「2. 1か月～5か月未満」が42.6%、「3. 5か月～1歳未満」が22.8%となっています。



(4) 精神的な落ち込みやイライラ感の頻度 × 夫（パートナー）の精神的な支え別

①妊娠中、②出産後約1か月間ともに、夫（パートナー）が精神的な支えに『なっている』ほど、精神的な落ち込みやイライラ感が『なかった』の割合が高くなる傾向がみられます。



第Ⅳ部 計画の内容 【各論】

第 1 章 ライフステージに応じた子ども・若者の成長

2 乳幼児期の子育て支援



【現状・課題・今後の方向性】

乳幼児期は、子どもの健やかな成長の基盤となる時期であるとともに、子育て家庭の悩みや不安が大きくなる時期であり、区役所・支所の子どもはぐくみ室や地域の子育て支援施設が有する相談機能を強化することが必要です。

子どもはぐくみ室による専門性の高い支援を通して子どもの健やかな発育・発達を促進するとともに、乳幼児期の親子が利用する居場所の充実と機能強化を図るため、行政、子育て支援施設や関係機関等との更なる連携により、ネットワークを形成することで、乳幼児期の子育て家庭を支援できる体制を構築します。

(1) 乳幼児の健やかな発育・発達のための支援の推進

多職種の視点を活かした乳幼児健康診査の充実や、課題や困りを抱える子どもや子育て家庭に対する支援の強化、乳幼児が転居する際に支援が途切れないよう情報連携の仕組みを構築することで、多職種・関係機関と連携しながら、乳幼児の健やかな発育・発達のための支援を推進します。

【主な取組】

- ・ 子育て世代包括支援センター機能の充実【再掲】
- ・ 乳幼児健康診査の充実（疾病スクリーニング等の精度管理を含む。）
- ・ 心理発達に課題を抱える子どもへの支援の充実
- ・ 児童虐待対策の機能強化
- ・ 乳幼児の健康情報の利活用に向けた取組の推進

(2) 乳幼児や子育て家庭の健やかな成長のための場づくり

自宅以外でも安心して過ごせ、ほかの親子や地域住民と交流できる場を提供するため、身近な地域の子育て支援施設が核となり、関係機関と連携し、既存の社会資源も最大限に生かしながら、支援の充実を図ります。

【主な取組】

- ・ 地域子育て支援拠点事業
- ・ 地域に開かれた施設運営の一層の推進（幼稚園、保育園、認定こども園等）
- ・ 身近な地域の子育て支援施設の連携強化（地域子育て支援ステーション事業）
- ・ 子育て援助活動支援事業（ファミリーサポート事業）
- ・ 子育てサロンや子育てサークル等の活動支援

(3) 子どもの病気や事故に対応できる体制の充実

子育て家庭が、事故予防対策や、医療機関への受診の要否の判断等の病気への対応を、自ら行うことができるよう、知識や技術の普及啓発を推進するとともに、子どもがいつでも安心して医療サービスを受けることができるよう、引き続き、小児科救急医療体制の確保を図ります。

【主な取組】

- ・ 子どもの事故や病気に関する知識や技術の普及啓発
- ・ 休日・夜間（深夜帯含む）・平日準夜帯の医療体制確保
- ・ 子育て支援施設における事故予防の推進

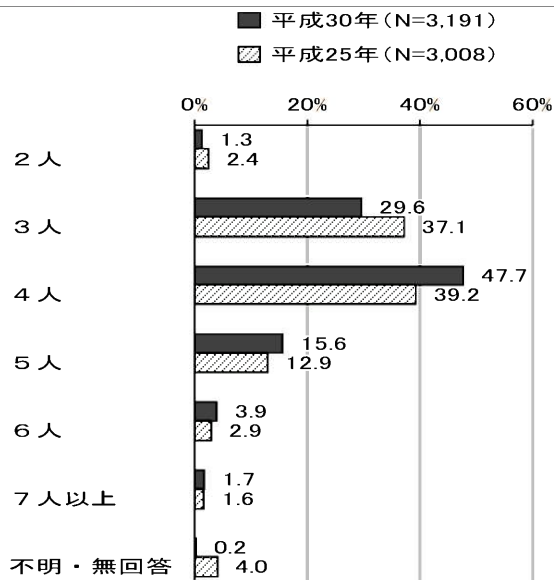
乳幼児期の子育てに関する現状

1 家族規模の縮小や地域のつながりの希薄化

(1) 家族の人数

家族の人数は、「4人」が47.7%と最も高く、次いで「3人」が29.6%、「5人」が15.6%となっています。

平成25年と比較すると、「4人」が8.5ポイント高く、「3人」が7.5ポイント低くなっています。

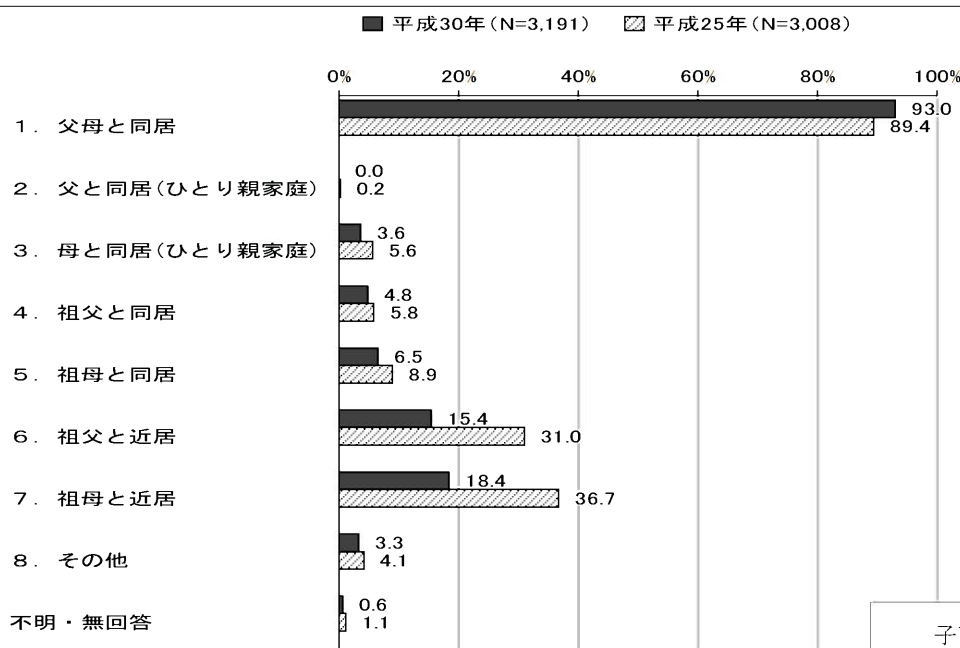


子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

(2) 子どもとの同居・近居の状況

「1. 父母と同居」が93.0%と最も高く、次いで「7. 祖母と近居」が18.4%、「6. 祖父と近居」が15.4%となっています。

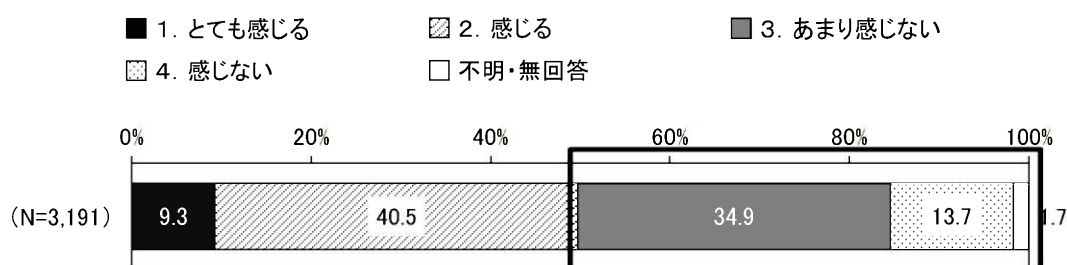
平成25年と比較すると、「7. 祖母と近居」が18.3ポイント、「6. 祖父と近居」が15.6ポイント低くなっています。



子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

（３）自身の子育てが、地域の人に支えられていると感じているか

「２．感じる」が 40.5%と最も高く、次いで「３．あまり感じない」が 34.9%、「４．感じない」が 13.7%となっています。



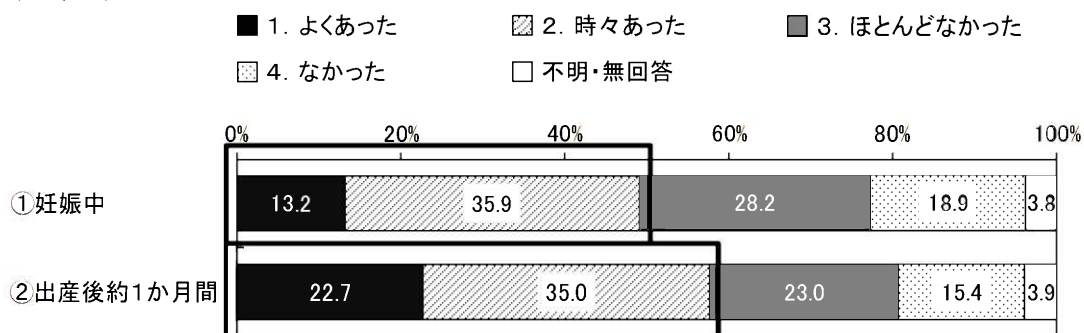
子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

２ 子育て家庭の孤立化及び悩みや不安

（１）妊娠中や産後１か月間に精神的な落ち込みやイライラ感を感じたか

①妊娠中、②出産後約１か月間ともに「２．時々あった」がそれぞれ 35.9%、35.0%と最も高く、次いで「３．ほとんどなかった」がそれぞれ 28.2%、23.0%となっています。

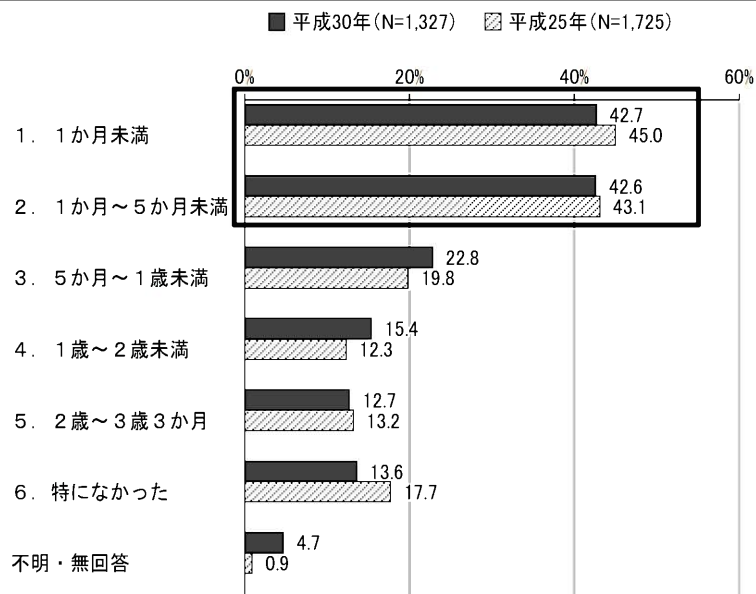
(N=1,327)



母子保健に関する意識調査
結果抜粋

(2) これまでの子育ての中で、特に悩みや不安が大きかった時期

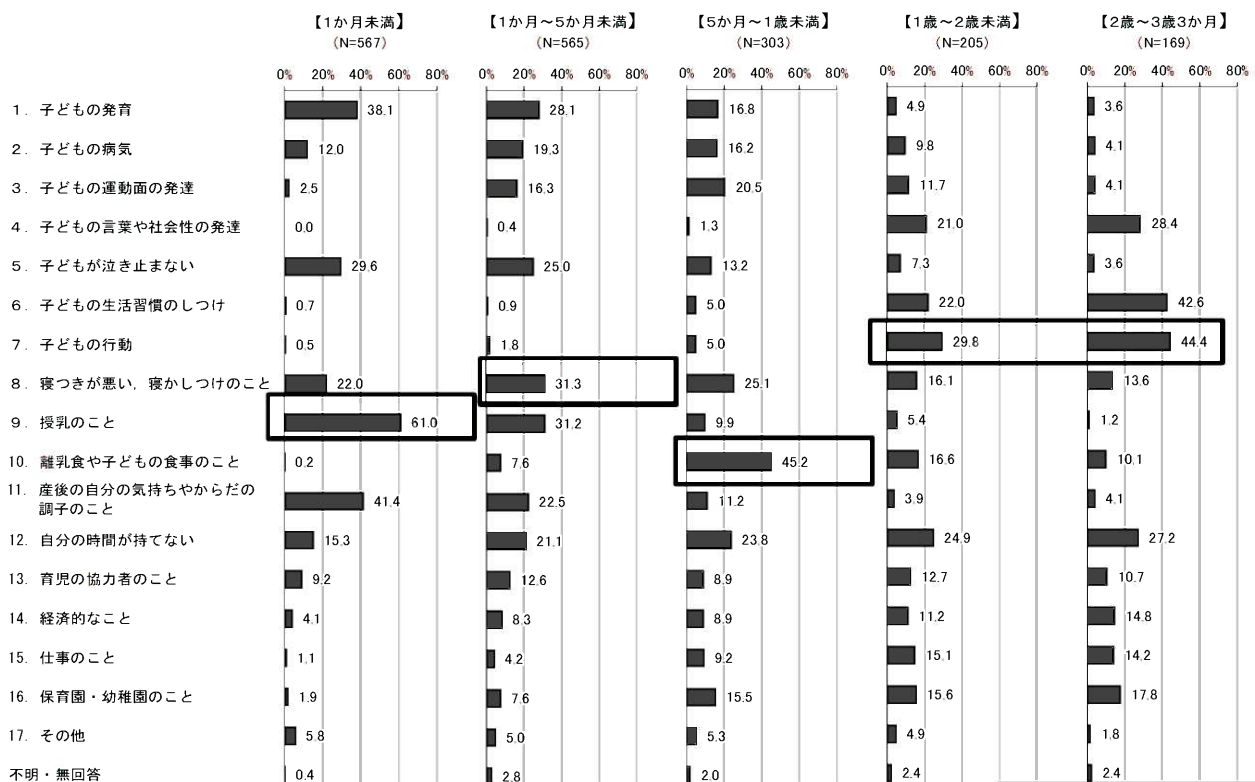
「1. 1か月未満」が42.7%と最も高く、次いで「2. 1か月～5か月未満」が42.6%、「3. 5か月～1歳未満」が22.8%となっています。



母子保健に関する意識調査
結果抜粋

(3) 子どもの月齢・年齢に応じた悩みや不安

「1か月未満」では「9. 授乳のこと」が61.0%、「1か月～5か月未満」では「8. 寝つきが悪い、寝かしつけのこと」が31.3%、「5か月～1歳未満」では「10. 離乳食や子どもの食事のこと」が45.2%、「1歳～2歳未満」「2歳～3歳3か月」では「7. 子どもの行動」がそれぞれ29.8%、44.4%と最も高くなっています。



母子保健に関する意識調査
結果抜粋

(4) 子どもに対して育てにくさを感じるか

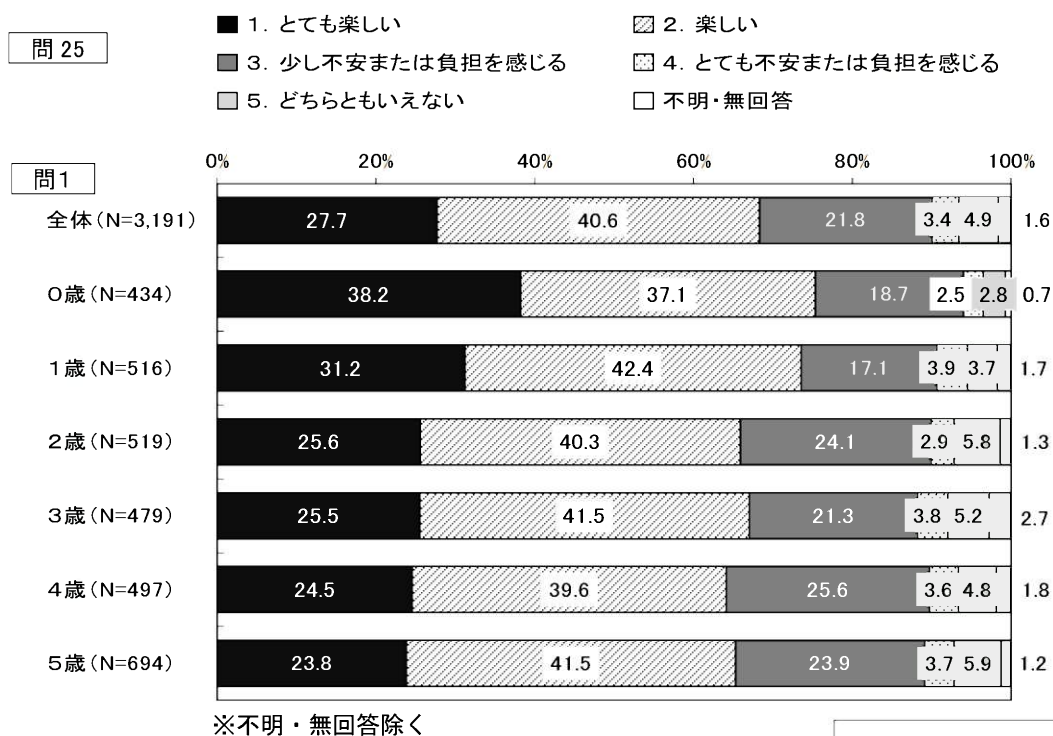
子どもの月齢・年齢が上がるほど、「感じる（「1. いつも感じる」と「2. 時々感じる」の合計）」の割合が高くなる傾向がみられます。

選択肢	合計		4か月児健診		1歳6か月児健診		3歳児健診	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1. いつも感じる	287	1.0%	45	0.5%	75	0.8%	167	1.7%
2. 時々感じる	6,876	24.1%	1,192	12.9%	2,184	23.0%	3,500	35.4%
3. 感じない	21,409	74.9%	7,974	86.6%	7,225	76.2%	6,210	62.9%
9. 無回答	2,070		675		734		661	
合計(無回答除く)	28,572		9,211		9,484		9,877	

平成30年度「健やか親子21（第2次）」
アンケート結果抜粋

(5) 子育てをしている今の気持ち×子どもの年齢別

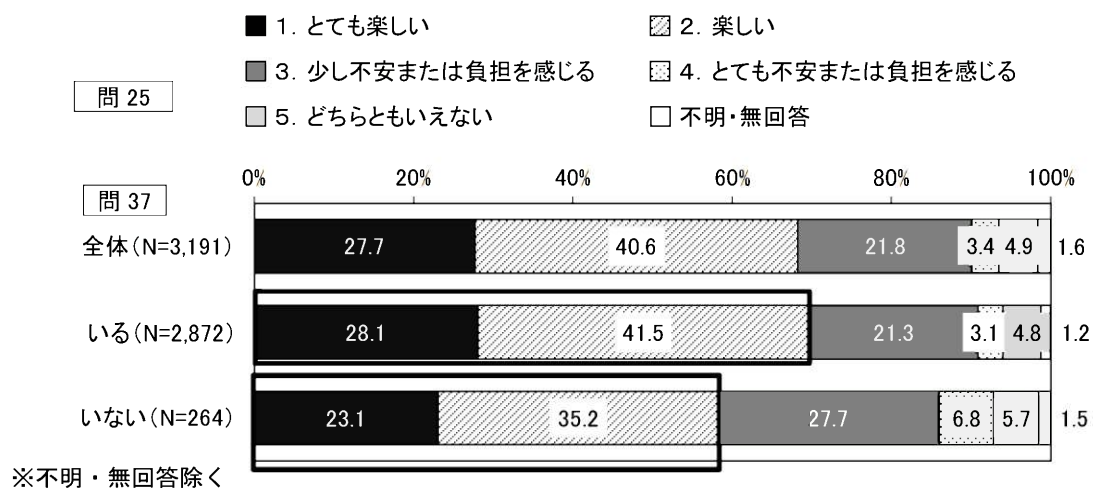
子どもの年齢が上がるほど「1. とても楽しい」の割合が低くなる傾向がみられます。



子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

（６）子育てをしている今の気持ち×子育て仲間の有無別

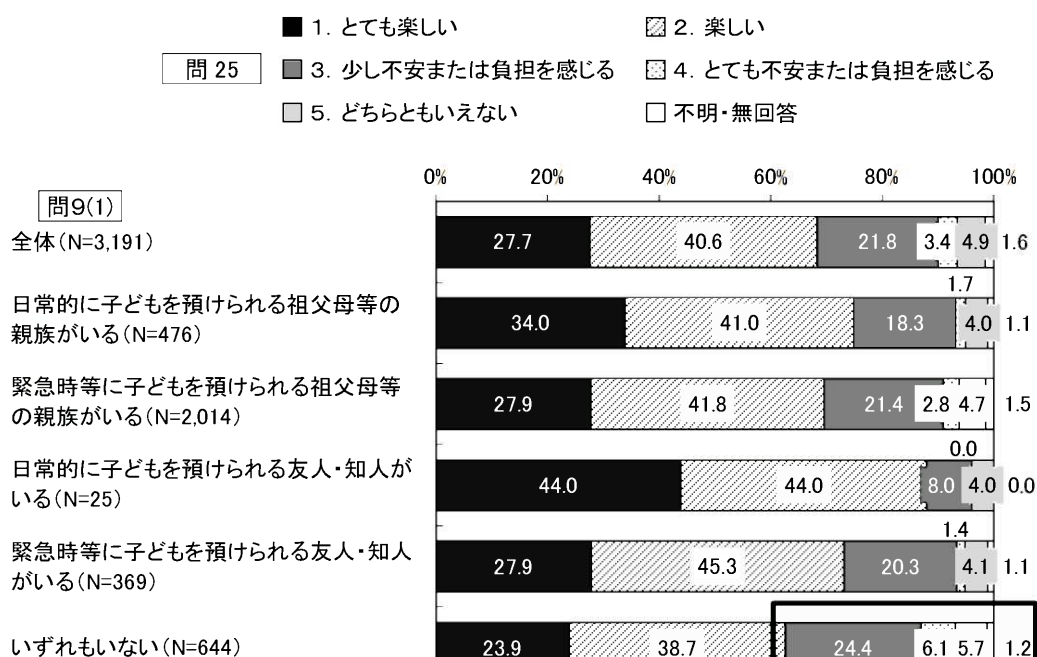
「[いない]」では「楽しい（「１．とても楽しい」と「２．楽しい」の合計）」の割合が「[いる]」に比べ低くなっています。



子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

（７）子育てをしている今の気持ち×子どもを預けられる人別

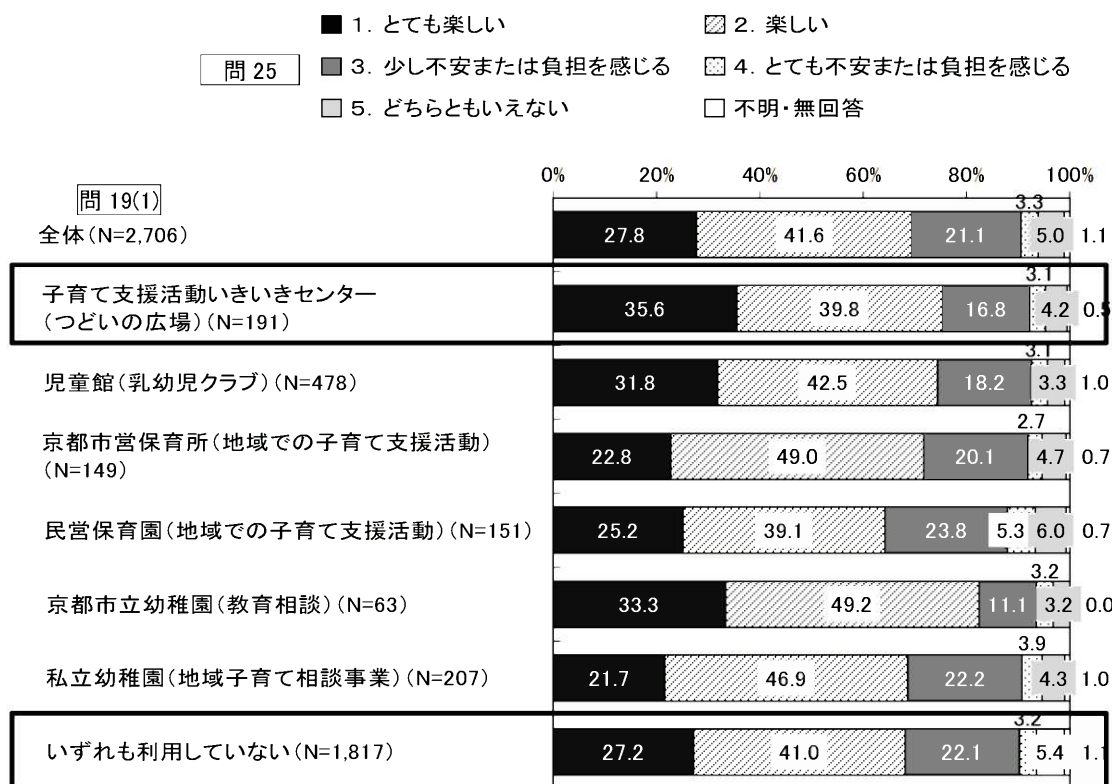
「[いずれもない]」で「楽しい（「１．とても楽しい」と「２．楽しい」の合計）」の割合が他の区分に比べ低くなっています。



子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

(8) 子育てをしている今の気持ち×地域の子育て支援事業の利用状況別

〔京都市立幼稚園（教育相談）〕では『楽しい（「1. とても楽しい」と「2. 楽しい」の合計）』が8割を超えています。

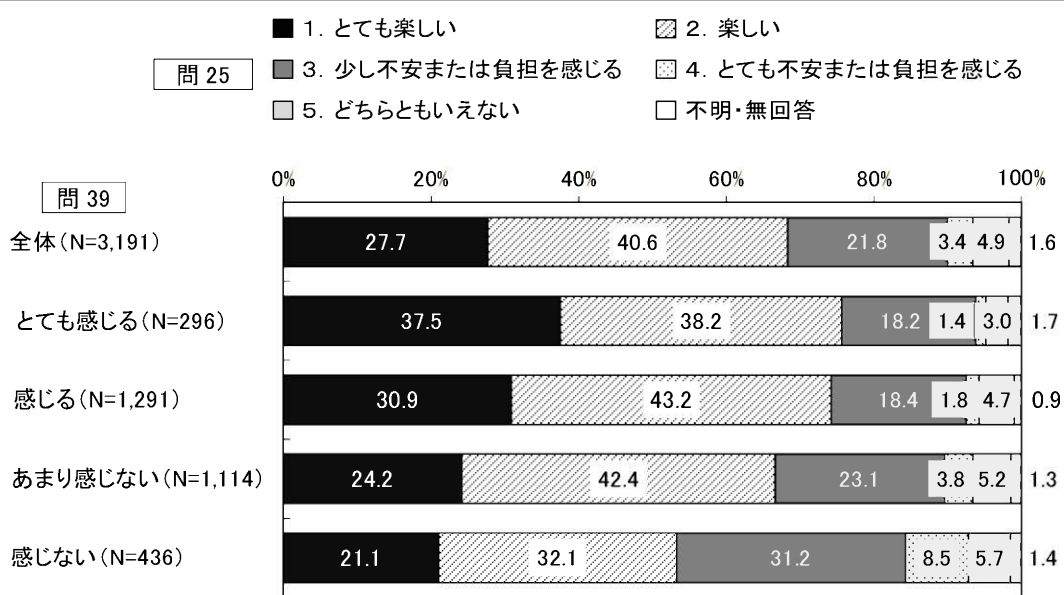


※不明・無回答除く

子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

(9) 子育てをしている今の気持ち×自身の子育てが、地域の人に支えられていると感じるか別

自身の子育てが、地域の人に支えられていると感じている方ほど「楽しい（「1. とても楽しい」と「2. 楽しい」の合計）」の割合が高くなる傾向がみられます。

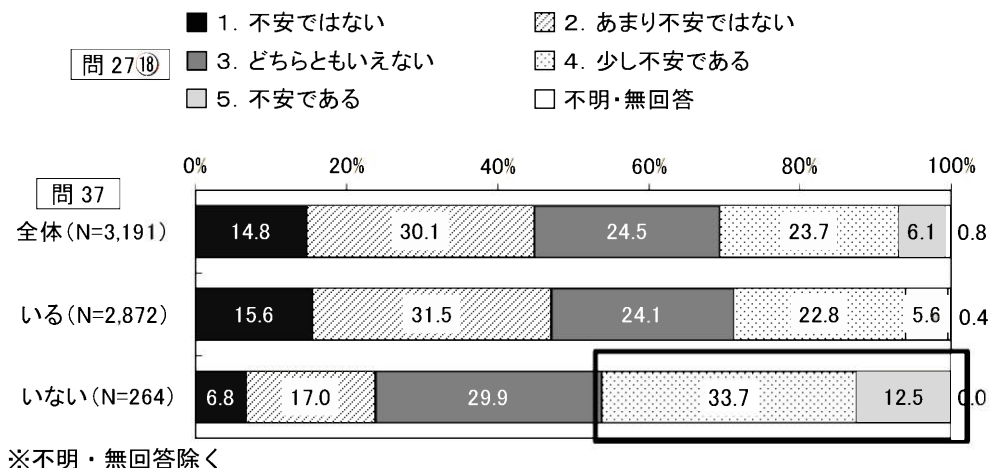


※不明・無回答除く

子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

(10) 自分の話し相手や相談相手×子育て仲間の有無別

自分の話し相手や相談相手について、[いない] では「不安である（「4. 少し不安である」と「5. 不安である」の合計）」の割合が [いる] に比べ高くなっています。

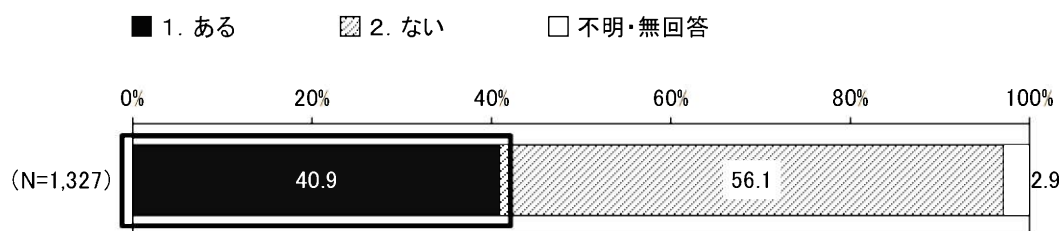


子育て支援に関する
市民ニーズ調査結果抜粋

3 家庭内での子どもの事故(※)の有無

(※) 家庭内での事故とは、転落、衝突、やけど、誤飲、溺（おぼ）れる、挟（はさ）む、切る・刺すなどの事故を指します。

「1. ある」が 40.9%、「2. ない」が 56.1%となっています。



母子保健に関する意識調査
結果抜粋

第Ⅲ部 計画の基本的な考え方【総論】**第2章 目指すまちのすがたを実現し、切れ目のない支援を推進するための重点項目****重点2 若者のライフデザイン形成への支援****3 仕事・結婚・子育て等々、将来に展望を持って成熟した社会人になることへの支援****【現状・課題・今後の方向性】**

情報化やグローバル化等，若者を取り巻く環境の変化が大きく，若者が明るい将来像を描きにくい社会になっています。また，家庭，学校や職場に，居場所や頼れる人がなく，自分を受け入れてくれる環境を求めている若者もいます。

思春期をはじめとする若者は，社会の一員としての自主性の基礎を形成する大切な時期であり，若者が自己肯定感を育み，将来の生き方を自ら考え，仕事・結婚・子育て等の希望するライフデザインを形成するための取組を推進します。

【主な取組】

- ・ 中学校・高等学校等における思春期健康教育の推進
- ・ 大学生や青年期の若者等を対象とした妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発

第 1 章 ライフステージに応じた子ども・若者の成長

思春期保健

**【現状・課題・今後の方向性】**

思春期は、心身の健康の基礎や自主性を形成し、将来への展望を抱き始める大切な時期です。

この時期を迎える若者に対し、将来を見据えたところとからだの健康づくりに関する知識の習得や体験等の機会を提供することにより、子育てをはじめとした将来のライフデザインをより確かなものにするとともに、次世代を担う意識づくりの醸成を図ります。

ところとからだの健康づくりと次世代をはぐくむ意識づくりの促進

思春期の若者が自身のからだところと向き合えるよう、関係機関と連携し、健康教育や普及啓発に取り組めます。

また、豊かな父性・母性を育むことができるよう、妊娠・出産等に関する体験等の機会を提供します。

【主な取組】

- ・ 中学校・高等学校等における思春期健康教育の推進
- ・ 大学生や青年期の若者等を対象とした妊娠・出産に関する正しい知識の普及啓発
- ・ 青少年と乳幼児のふれあい事業の推進

思春期保健に関する現状

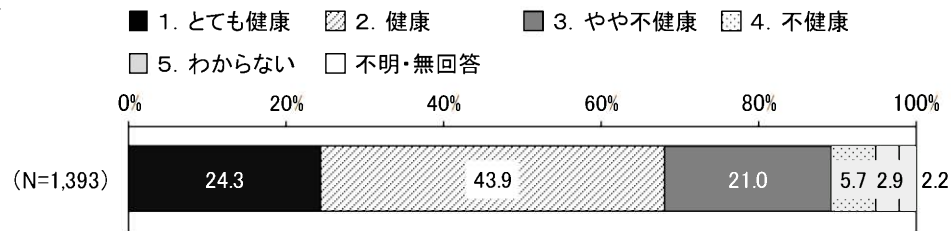
1 心身の健康

(1) 自身の健康観

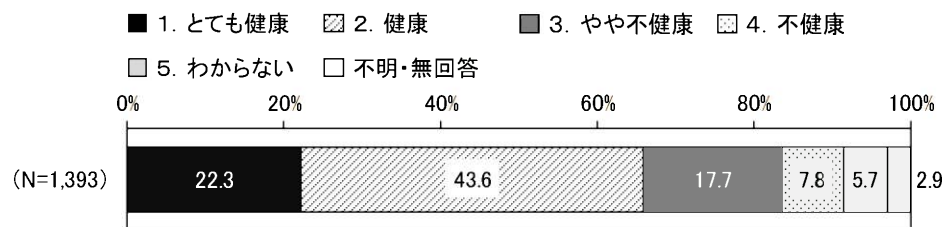
①からだについて、「健康（「1. とても健康」と「2. 健康」の合計）」が 68.2%、「不健康（「3. やや不健康」と「4. 不健康」の合計）」が 26.7%となっています。

②ところについて、「健康」が 65.9%、「不健康」が 25.5%となっています。

①からだ

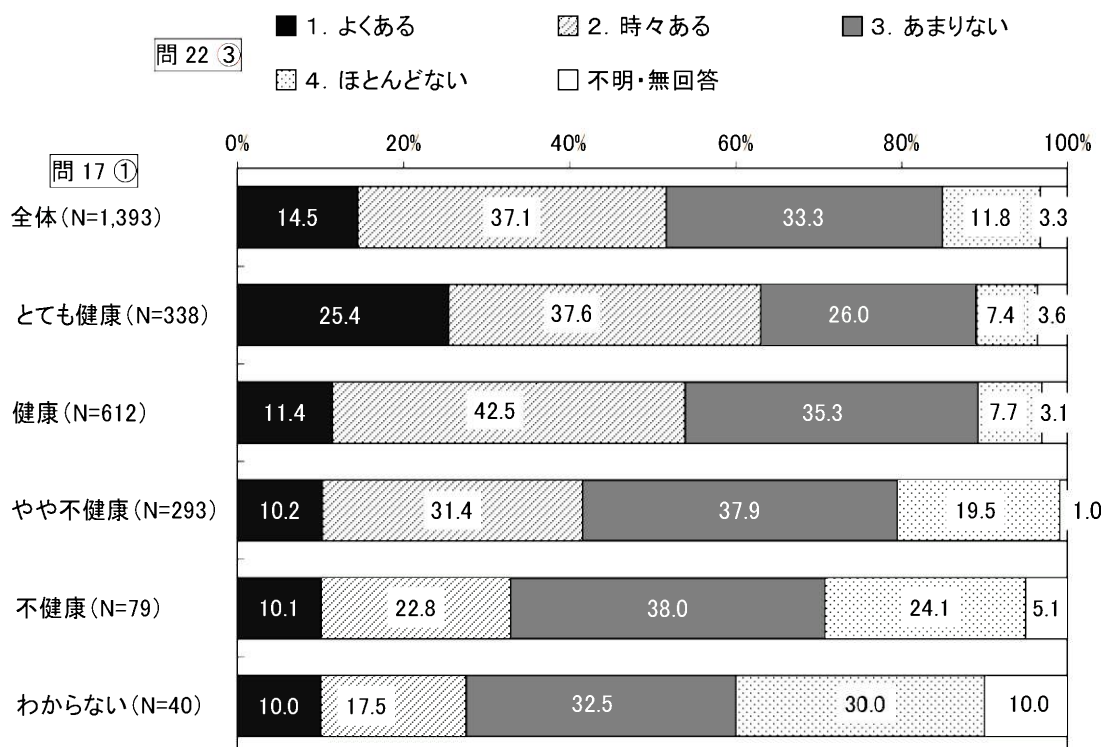


②ところ



(2) 自己肯定感（自分は価値がある存在だと思う）× 自分の健康観（からだ）別

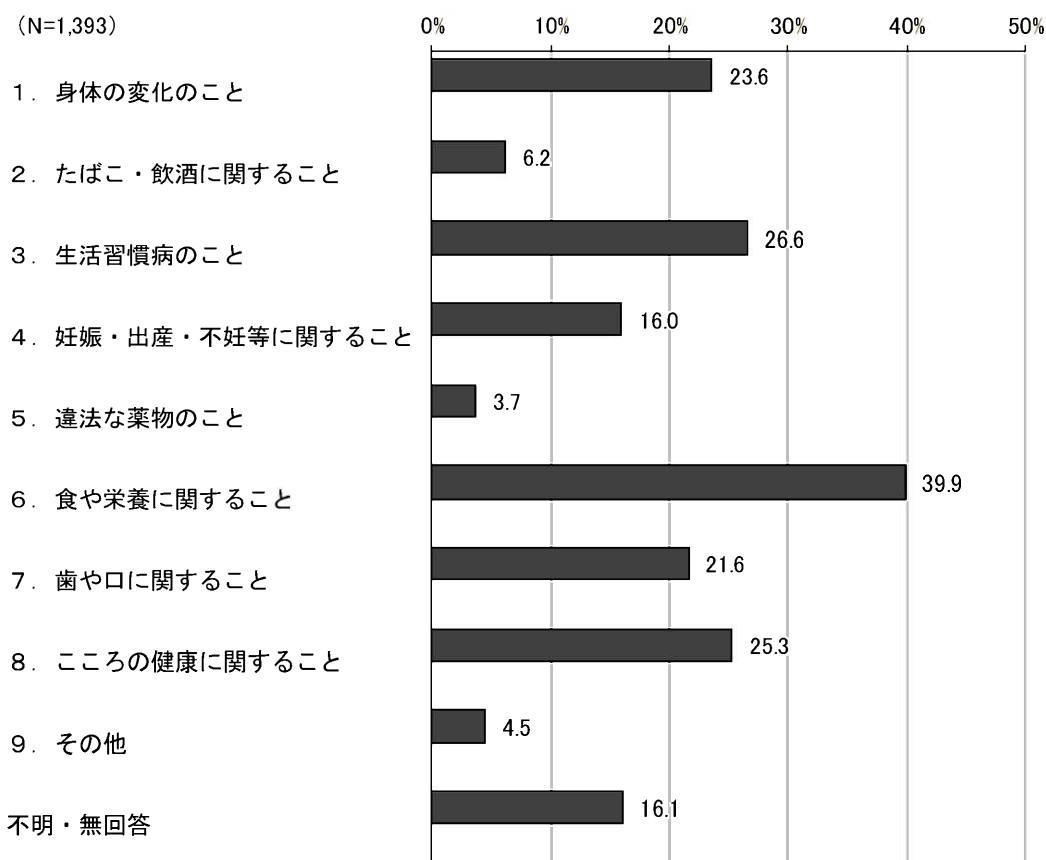
からだの健康観の度合いが下がるほど、「ある（「1. よくある」と「2. 時々ある」の合計）」の割合が低くなる傾向がみられます。



※不明・無回答除く

(3) 健康について知りたいこと

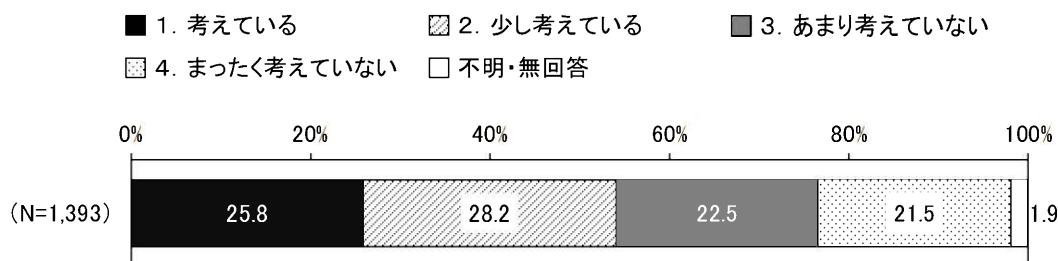
「6. 食や栄養に関すること」が 39.9%と最も高く、次いで「3. 生活習慣病のこと」が 26.6%, 「8. こころの健康に関すること」が 25.3%となっています。



2 ライフデザイン

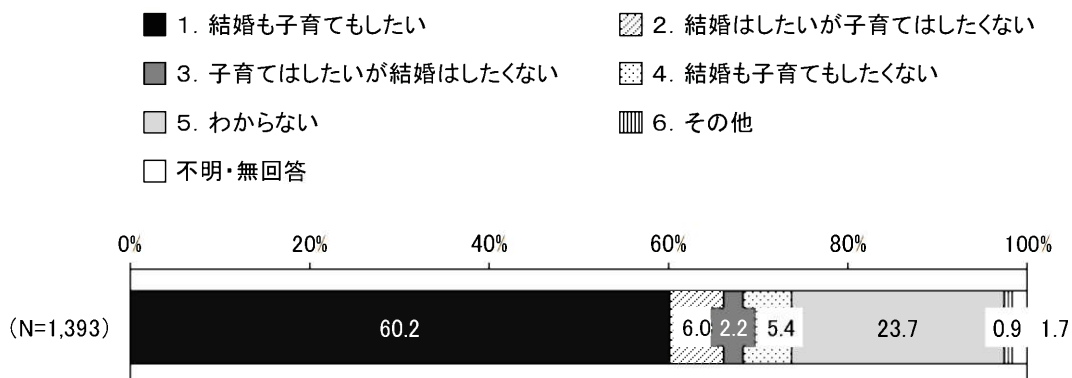
(1) 将来のライフデザインを考えているか

「考えている(「1. 考えている」と「2. 少し考えている」の合計)」が 54.0%, 「考えていない(「3. あまり考えていない」と「4. まったく考えていない」の合計)」が 44.0%となっています。



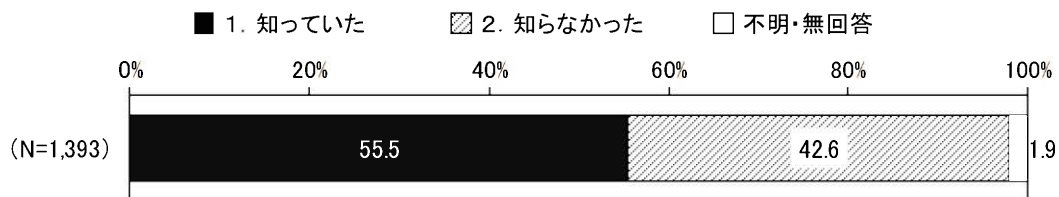
(2) 将来の結婚や子育てに対する考え方

「1. 結婚も子育てもしたい」が60.2%と最も高く、次いで「5. わからない」が23.7%、「2. 結婚はしたいが子育てはしたくない」が6.0%となっています。



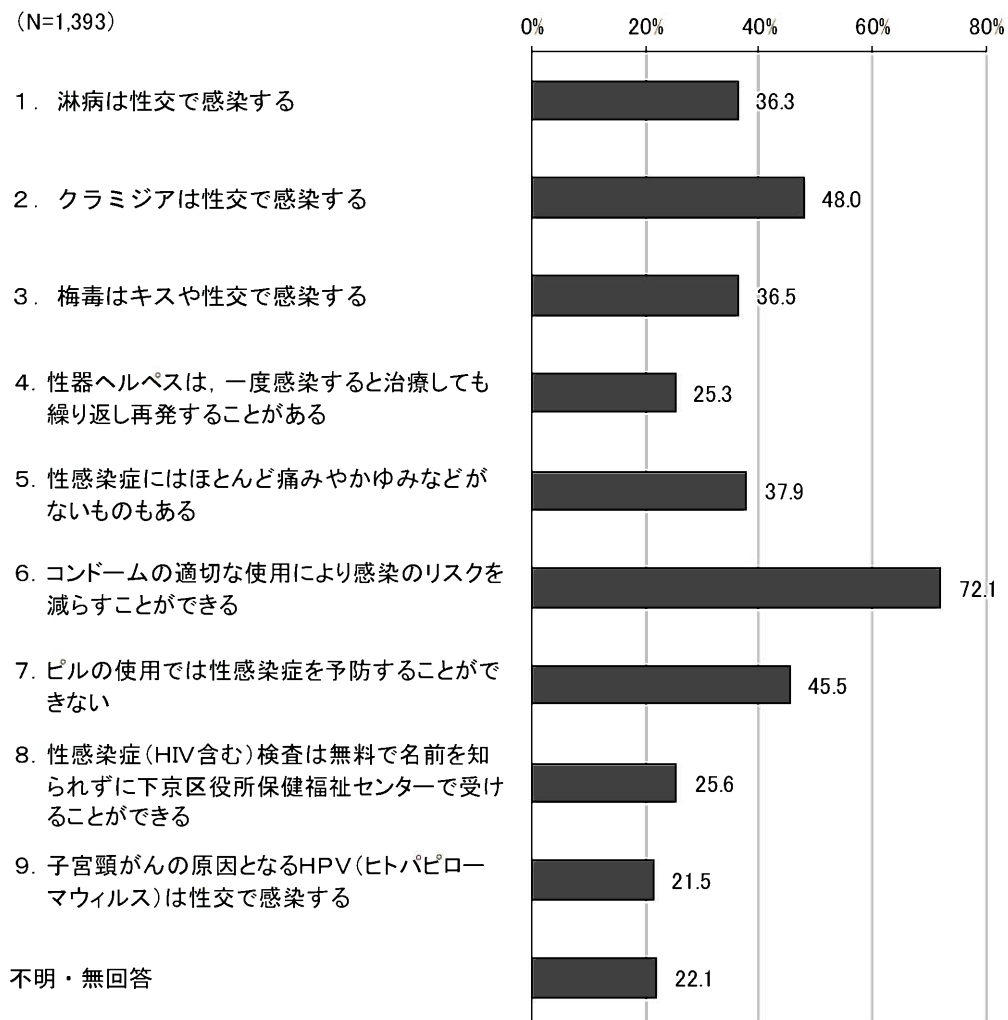
(3) 妊孕性について知っているか

「1. 知っていた」が55.5%、「2. 知らなかった」が42.6%となっています。



(4) 性感染症について知っていること

「6. コンドームの適切な使用により感染のリスクを減らすことができる」が 72.1%と最も高く、次いで「2. クラミジアは性交で感染する」が 48.0%, 「7. ピルの使用では性感染症を予防することができない」が 45.5%となっています。



(5) 性感染症や避妊方法の情報取得経路

「4. 学校の先生」が57.3%と最も高く、次いで「10. インターネット・SNS等」が37.5%, 「7. 専門家による講義・講演」が12.9%となっています。

